

## 編集委員会から

### 2023-2024 年度の編集委員会もよろしくお願いいたします

第 24 巻第 4 号からも 2 年間、日本食品工学会誌編集委員長を務めさせていただくことになりました田中孝明です。よろしくお願いいたします。

2 年前の 2021-2022 年度から編集委員長として、編集業務を担当することになりました。多くの方々にご支援をいただき、感謝しております。前期の編集委員の方には 2023-2024 年度もご協力いただけることになりました。新編集委員会には新人の方にも加わっていただいております。

会員の皆様からの研究論文・技術論文のご投稿をお待ちしております。

2 年前とほぼ同じ (+ update) ですが、日本食品工学会誌のアピールをさせていただきます。

日本食品工学会誌は、「日本学術会議協力学術研究団体の学会誌」です。いわゆる SCI ジャーナルではございませんが、J-STAGE を利用したフリーアクセスジャーナルです。Scopus (エルゼビア社の引用文献データベース。CiteScore というジャーナル評価指標が付きます) にも登録されています。フリーアクセスジャーナルですので、本誌の掲載論文は出版されると全世界からオンラインで読んでいただけます。読者は会員・非会員を問いません。年 4 回の発行ですが、冊子版の発行月 (3・6・9・12 月) の前月までに出版用 PDF (校正完了済) の準備できた場合は J-STAGE で早期公開するように努めています (Digital Object Identifier, DOI が付きますので早期公開論文も引用していただけます)。

現在、J-STAGE の基準では「オープンアクセスジャーナル」ではなく、「フリーアクセスジャーナル」の状況です。一方、2023 年 6 月 9 日に閣議決定された「統合イノベーション戦略 2023」では、国からの援助による研究成果は「即時オープンアクセスジャーナル」による研究発表が求められるようになりました。現在、編集委員会では「即時オープンアクセスジャーナル」を目指して準備しております。

アクセプトされた論文には掲載料をいただいておりますが、多くのオープンアクセスジャーナルの掲載料 (Article Processing Charge, APC) が 1000 ドル (約 15 万円) 以上のものが多い中で本誌は非会員の方でも半額以下となっております (ページ数によります)。さらに、日本食品工学会会員の方には非会員の方の 3 分の 2 の掲載料と格安にさせていただいております。

編集委員会では前年に掲載された投稿論文 (著者に会員の方を含む論文に限ります。また、各賞受賞解説論文を除きます) の中から 2 報の論文を論文賞候補として授賞委員会へ推薦しています。論文賞を受賞された著者の方々は日本食品工学会年次大会で表彰されておられます。

投稿論文のカテゴリーには、原著論文・技術論文・総説および解説・ノート・レターがございますが、詳しくは日本食品工学会ホームページに掲載の「日本食品工学会誌投稿規定」をご覧ください。

日本食品工学会の学会活動の特色としてインダストリー委員会との連携がございます。会誌にはインダストリー委員会から「注目しています。その技術！」などの記事をご寄稿いただいております。企業の技術者・研究者の方に注目技術を分かりやすく解説していただいております。貴重な記事となっております。

24 年の歴史を有する日本食品工学会誌を食品工学の研究・技術の交流のメディアとして、継続・発展させていきたいと考えております。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(新潟大学 田中孝明)